

袖ヶ浦市 総合 防災 ハザードマップ

保存版



●災害時には市の発信情報等を確認しよう

袖ヶ浦市役所

市のホームページです。
防災行政無線で放送した内容は
トップページに表示されます。(24時間掲載)
<https://www.city.sodegaura.lg.jp/>



防災行政無線 テレホンサービス

放送した内容を無料で聞くことができます。
フリーダイヤル **0120-031-240**
[https://www.city.sodegaura.lg.jp/soshiki/bousai/
telephone-service.html](https://www.city.sodegaura.lg.jp/soshiki/bousai/telephone-service.html)



生活安全メール

防災・火災・防犯などの情報を電子メール
でお知らせします。
[https://www.city.sodegaura.lg.jp/soshiki/hisho/
seikatuanzenmail.html](https://www.city.sodegaura.lg.jp/soshiki/hisho/seikatuanzenmail.html)



袖ヶ浦市WEB版 防災ハザードマップ

本紙に掲載されたハザードマップをイン
ターネットで確認できます。
[https://www.city.sodegaura.lg.jp/hazardmap-web/
index.html](https://www.city.sodegaura.lg.jp/hazardmap-web/index.html)



●ハザードマップでご自宅・周辺をチェックしよう

洪水浸水想定区域

有 ・ 無
浸水深
[]

土砂災害警戒区域

有 ・ 無

津波

有 ・ 無

高潮

有 ・ 無

袖ヶ浦市総合ハザードマップ発刊にあたり

市長 粕谷 智浩



近年は、全国各地で豪雨災害が毎年のように発生しており、これまでに経験したことがないような記録的な大雨による、土砂崩れや河川の氾濫などにより大きな被害が生じています。本市においても、令和元年台風第15号・19号により住宅等に甚大な被害を受けたことは、皆様の記憶に新しいところと思います。

また、東日本大震災、熊本地震等の大地震も頻発し、津波や家屋倒壊により多くの方が犠牲になられており、今後も、首都直下地震や東南海・南海地震などの本市にも影響の大きい地震の切迫性が指摘されているところです。

災害は決して他人事ではなく、いつ、どこで、何が起こるかは発災まで定かではなく、また、過去に経験したことのある規模で収まるとも限りません。あらゆる災害に対して「想定外」の事態とならないように、行政だけではなく、市民の一人ひとりがどう備えておくかが非常に重要となります。

この度の「袖ヶ浦市総合ハザードマップ」は、それらの備えの一助となるよう発行するものです。

お住いの地域の災害リスクや市内の危険箇所を把握していただくことで、有事の際には、迅速かつ安全に避難行動がとれるよう、ご家庭や地域での防災対策にご活用いただければ幸いです。

目次

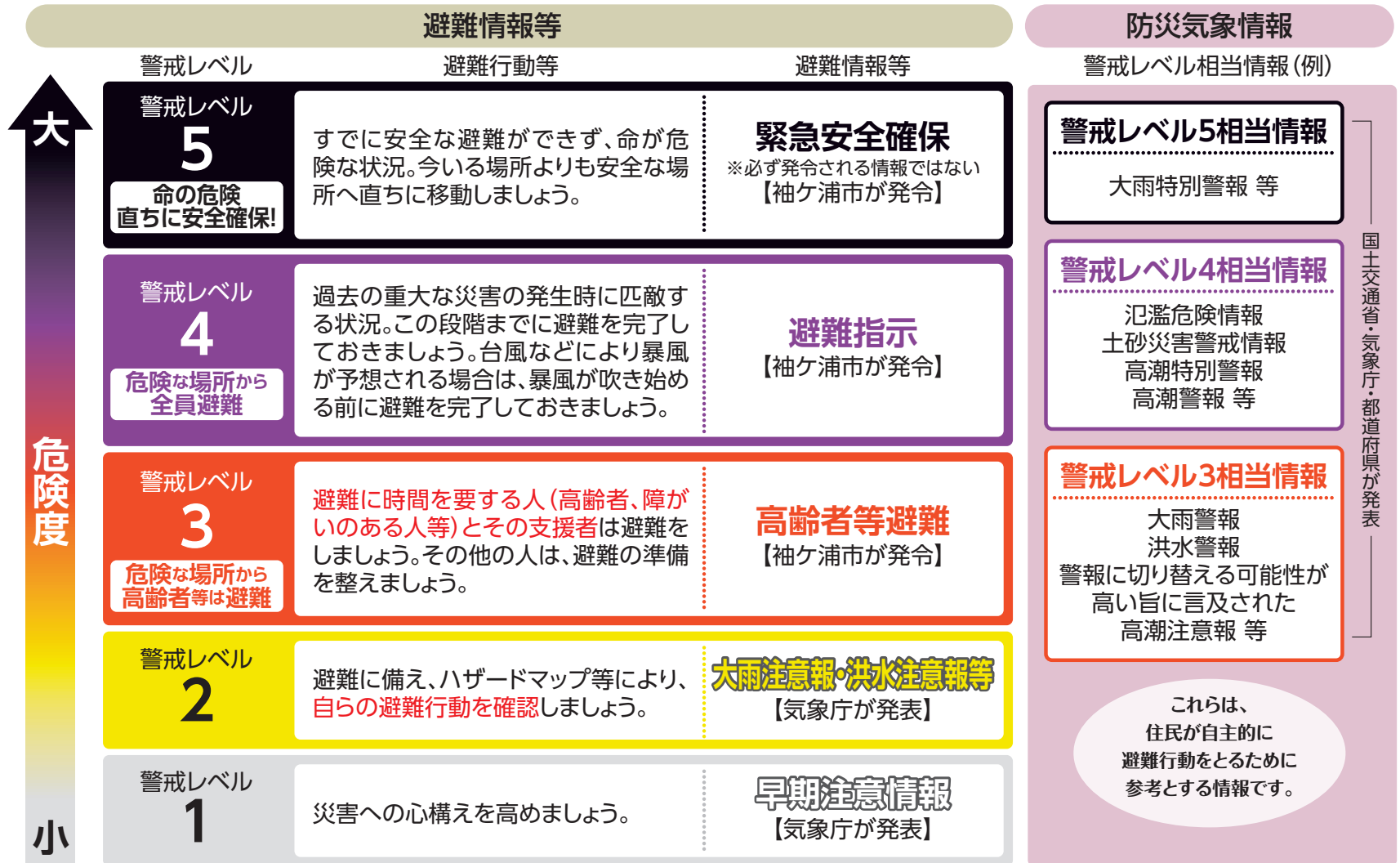
P1	■ 発刊にあたり	P42	■ 火災対策
P2	■ 避難に関する情報	P43	■ 揺れやすさマップ
P3	■ 総合ハザードマップの使い方	P44	■ 液状化危険度マップ
P4	■ 避難行動判定フロー	P45	■ 地域の防災対策
P5～P8	■ 風水害等に備えて	P46	■ わが家の防災対策
P9・P10	■ 袖ヶ浦市全域図	P47	■ 避難時の感染症対策
P11～P30	■ 洪水・浸水土砂災害エリアマップ①～⑩	P48	■ 災害時のペット対策
P31・P32	■ 高潮浸水想定区域図	P49	■ 応急手当
P33～P36	■ ため池浸水想定区域図①②	P50	■ 備蓄品および非常時持ち出し品
P37・P38	■ 津波対策	P51	■ わが家の防災メモ
P39・P40	■ 津波浸水想定区域図	P52	■ 避難所一覧
P41	■ 地震対策	P53・P54	■ マイ・タイムライン作成シート

避難に関する情報

一部気象庁ホームページから引用

市が発令する避難情報と国や県が発令する防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いて、避難情報を発令します。**警戒レベル3【高齢者等避難】**や**警戒レベル4【避難指示】**が発令された際には、危険な場所から速やかに避難行動をとりましょう。



特別警報

- 「特別警報」とは、警報の発表基準をはるかに超える大雨や、大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合に発表し、最大級の警戒を呼びかけるものです。
- 特別警報が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度の、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。

発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合 [大雨特別警報(土砂災害)]、[大雨特別警報(浸水害)]又は[大雨特別警報(土砂災害、浸水害)]のように発表
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域))
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上))

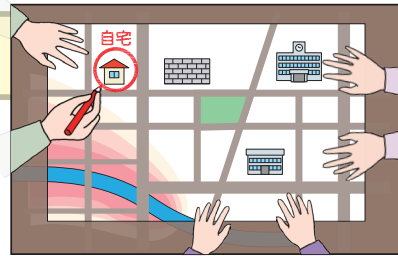
総合ハザードマップの使い方

この総合ハザードマップは、普段から災害リスクを認識したうえで、自分が知っておくべき「危険箇所」、「指定緊急避難場所・指定避難所」、「避難経路」、「家族との連絡方法」などの必要な情報を書き込んで、「自分だけのハザードマップ」として使いましょう。

チェック

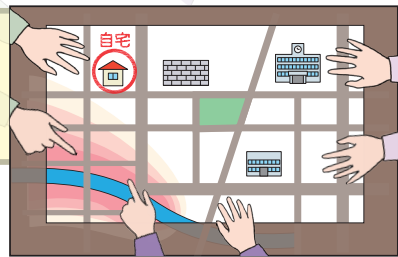
1 自宅の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。



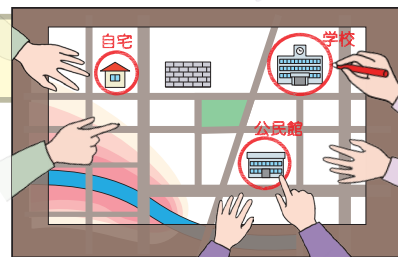
2 浸水や土砂災害などの危険区域を確認する

災害ごとのハザードマップを見て、自宅周辺に災害の危険区域があるか確認してください。



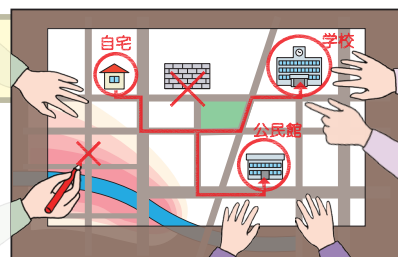
3 避難する場所を災害ごとに確認する

たとえば、津波や洪水のときには危険なため使用できない指定緊急避難場所などがあります。52ページの「避難所一覧」で、災害ごとにどこに避難するか、決めておきましょう。



4 安全な避難経路を考える

3で決めた指定緊急避難場所・指定避難所までの経路を考えましょう。「浸水の危険のある場所」や「ブロック塀等の危険な場所」など、危険箇所は避けましょう。



5 避難について家族や近所の人と話し合う

「周辺の危険箇所」「避難する場所」「避難経路」などについて、家族や近所の人と話し合っておきましょう。いざというときには、慌てず、声を掛け合って、最善の避難行動がとれるように心構えをしておきましょう。

6 自分たちの目で避難経路を確認する

指定緊急避難場所・指定避難所までの経路を、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。マップ上では気が付かなかった危険箇所や注意点などを記録しておきましょう。



7 避難時の持ち出し品などを準備しておく

50ページの「備蓄品および非常時持ち出し品」を参考に、避難するときの持ち出し品など、必要なものを準備しておきましょう。



※各ハザード情報は、一定の条件に基づき予測されたものであり、実際の災害時は想定を超える可能性があります。

避難行動判定フロー

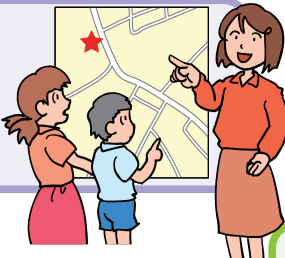
台風・豪雨等に備えてハザードマップと一緒に
「避難行動判定フロー」を確認しましょう

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を
確認しましょう

避難行動判定フロー

平時に
確認

ハザードマップ(本書)で自分の
家がどこにあるか確認し、印を
つけてみましょう。



あなたがとるべき
避難行動は?

必ず取り組みましょう

はい

家がある場所に色が
塗られていますか?

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低
い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、
市からの避難情報を参考に必要に応じて
避難してください。

はい

被災するおそれがあるので、
原則として、自宅の外に避難
が必要です。

参照

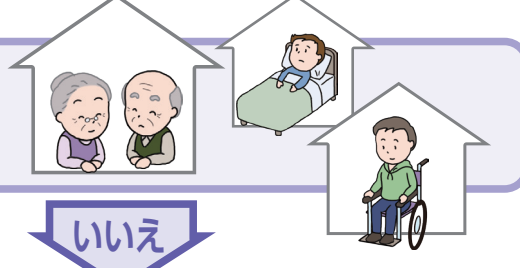
- 土砂災害(特別)警戒区域
- 水防法に基づく洪水浸水想定区域
- 河川氾濫推定区域

上記に該当する世帯は
⇒5~8ページ「風水害等に備えて」を
ご覧ください

- 津波浸水想定区域に該当する世帯は
⇒37・38ページ「津波対策」をご覧
ください



ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?



はい

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せら
れる親戚や知人はいますか?



安全な場所に住んでいて身を寄せら
れる親戚や知人はいますか?

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル3が出
たら、安全な親戚
や知人宅に避難
しましょう(日頃
から相談してお
きましょう)

警戒レベル3が出
たら、市が指定し
ている指定緊急
避難場所に避難
しましょう

警戒レベル4が出
たら、安全な親戚
や知人宅に避難
しましょう(日頃
から相談してお
きましょう)

警戒レベル4が出
たら、市が指定し
ている指定緊急
避難場所に避難
しましょう

風水害等に備えて

一部内閣府広報誌から引用
一部国土交通省ホームページから引用
一部気象庁ホームページから引用
一部千葉県ホームページから引用

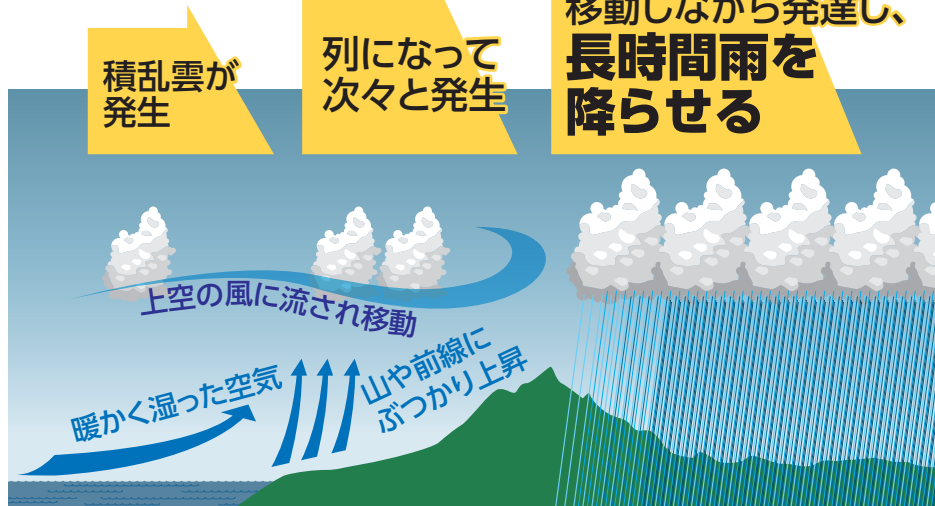
大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合
大雨警報	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表する。

雨の強さと降り方 (単位:mm/時)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
「やや強い雨」 ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	「強い雨」 どしゃ降り。ワイパーを速くしても見づらい。	「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになる。	「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。傘は全く役に立たなくなる。	「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。

線状降水帯とは



記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表されます。

この情報が発表されたときは、避難情報が発令されていなくても、今後、急激に状況が悪化するおそれもあります。危険を感じた場合には、自ら安全な場所へ移動する判断をしてください。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、大きな被害をもたらすことがあります。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

台風の大きさと強さの目安

風速15m/秒以上の半径		最大風速(m/秒)		
大きさ	大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
	超大型(非常に大きい)	800km以上～	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
			猛烈な	54m/秒以上～

風の強さと吹き方 (平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～30未満	30以上
「やや強い風」 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	「強い風」 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	「非常に強い風」 何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	「猛烈な風」 屋外での行動はきわめて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。

水害時の心得

安全な避難経路の確認

避難する場合の避難場所までの経路(避難経路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しましょう。



被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、土のうや板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎましょう。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。※自宅内のトイレや風呂場、洗濯機の排水口に水のう(ビニール袋に水を入れたもの)を置くことで逆流を防げます。



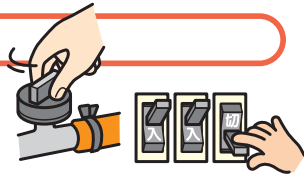
避難の呼びかけを

危機が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声を掛けながら避難しましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



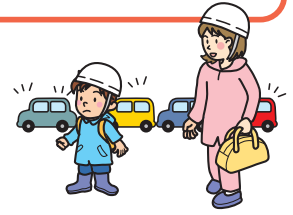
地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。



避難場所までの移動

風雨が激しくなる前に早めに避難しましょう。避難することが危険な場合は、自宅または頑丈な高い建物の上階へ避難しましょう。(垂直避難)
※車による避難は、渋滞に巻き込まれたり、水没する危険性があるので、原則、徒歩で避難しましょう。



歩ける深さは約50cm

洪水の場合、歩ける深さは約50cmまで。水の流れが速い場合、50cm以下でも危険。危ないと判断したら、無理をせず高い場所で救助を待ちましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているのので、さわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色の物がよいでしょう。

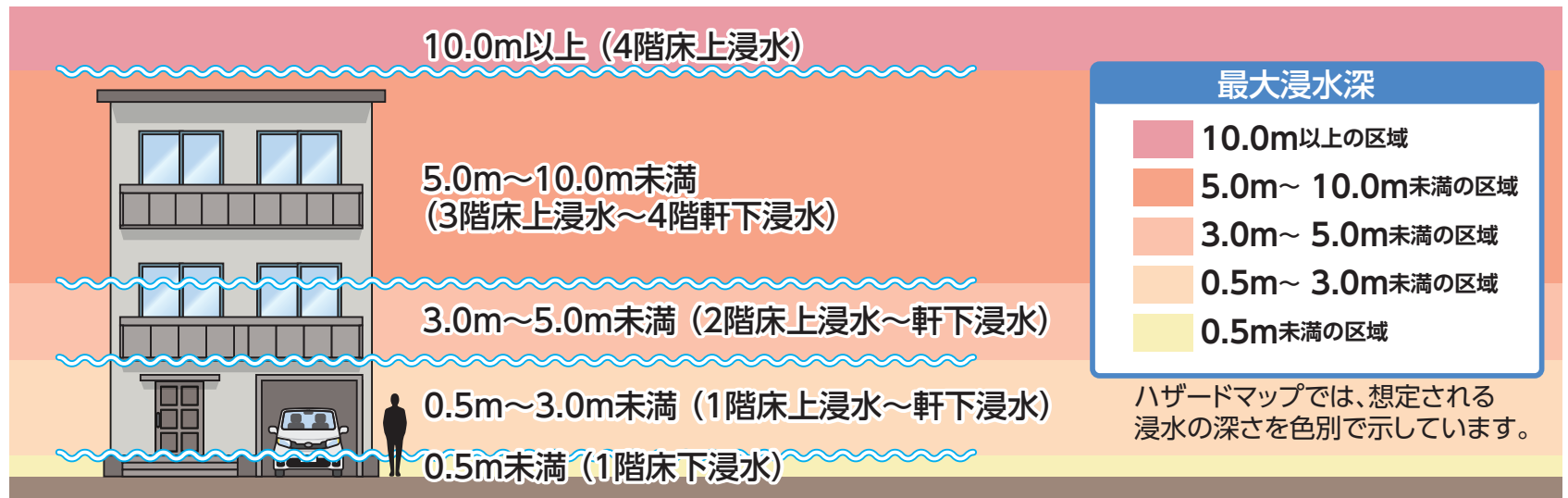


水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



浸水の深さについて



雪害

凍結や滑りやすい場所~こんなところにも注意!

日陰の坂道や歩道

橋、歩道橋、階段

マンホール

人通りの少ない裏通り

雪よせ路肩と歩道の間

車庫、自転車置き場

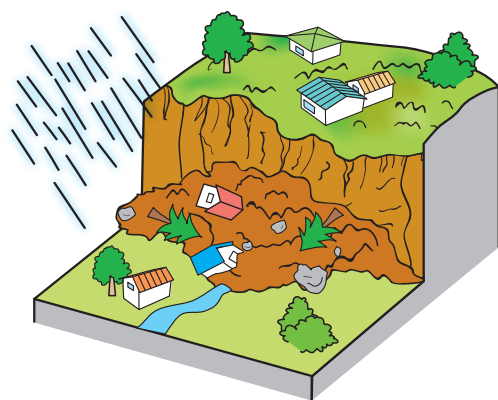
など

土砂災害の種類

突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまう土砂災害は、大きく3種類に分けることができます。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

集中豪雨や地震などにより地盤が緩み、抵抗力の低下や浮石の抜け出しが生じて瞬時に斜面が崩れ落ちる現象。突発的に起こり、崩れ落ちるスピードが速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合が高い。

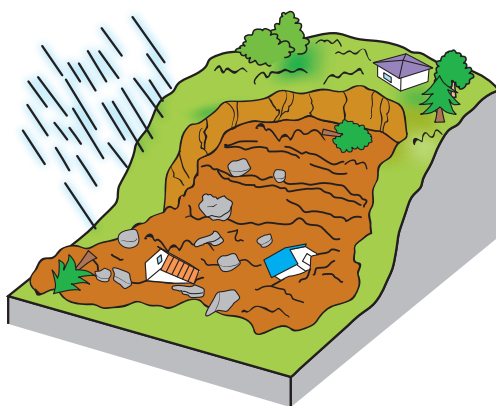


前兆現象

- がけにひび割れができる
- 小石がパラパラと落ちてくる
- がけから水が湧き出る
- 湧き水が止まる
- 湧き水が濁る
- 地鳴りがする

地すべり

比較的緩やかな斜面において、地中の滑りやすい層(粘土・泥岩などを含む地層)の地盤が地下水の影響などを受けて、ゆっくりと動き出す現象。一度に広い範囲が動くため、ひとたび発生すると人家、道路、田畑などに大きな被害を及ぼしたり、川をせき止めて洪水等を引き起こす原因になることもある。

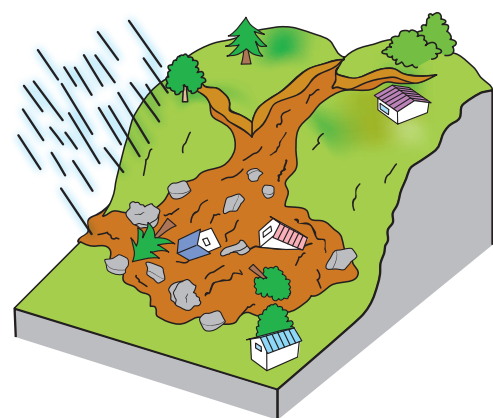


前兆現象

- 地面がひび割れたり陥没したりする
- がけや斜面から水が噴き出す
- 井戸や沢の水が濁る
- 地鳴り・山鳴りがする
- 樹木が傾く
- 亀裂や段差が発生する

土石流

渓流に貯まった土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流される現象。時速20km~40kmと自動車なみの速度で流れ、破壊力がとても大きいため、人家や田畑を押し流し大きな被害をもたらす。

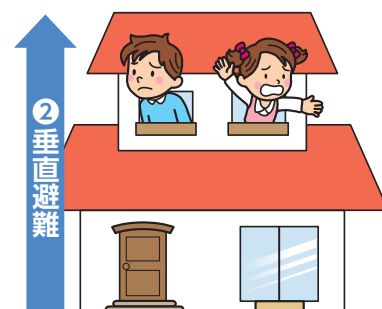


前兆現象

- 山鳴りがする
- 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- 腐った土の匂いがする
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 立木がさける音や石がぶつかり合う音が聞こえる

避難行動のポイント

- 1 上記の土砂災害の前兆現象に注意し、すぐに避難を行う。
- 2 土石流やがけ崩れの起こる方向に対して横方向に避難(①水平避難)する。
- 3 大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(②垂直避難)することも考慮しましょう。
- 4 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。
- 5 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。



イエローゾーン・レッドゾーン

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、土砂災害防止法*に基づき、千葉県が指定しています。

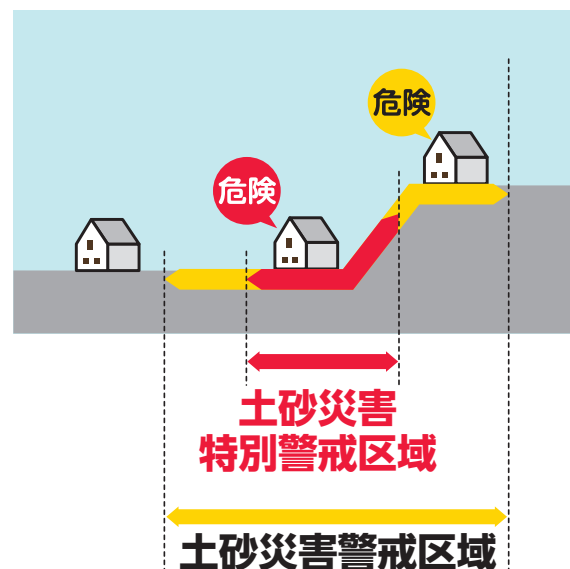
*土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。
危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。
特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



竜巻による災害

竜巻とはこのような現象です

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生する激しい渦巻きです。
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します。
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。
- 移動スピードが非常に速い場合があります。過去に発生した竜巻の中には、時速約90kmで移動したものもあります。

竜巻の発生時に、よく現れる特徴

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ひやっとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

竜巻から身を守るには…

頑丈な建物へ避難、
物置の中や
ガラス窓の周囲は
避けましょう

※丈夫な机等の下で身を守る

竜巻発生確度ナウキャスト <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/tornado3-1.html>

10km四方の領域ごとに竜巻等の発生しやすさの解析結果を2段階の発生確度で表し、実況と1時間先までの予測を10分ごとに更新し、提供されています。

発生確度 2	竜巻などの激しい突風が発生する可能性があり注意が必要である。予測の適中率は7~14%程度、捕捉率は50~70%程度である。発生確度2となっている地域に竜巻注意情報が発表される。
発生確度 1	竜巻などの激しい突風が発生する可能性がある。発生確度1以上の地域では、予測の適中率は1~7%程度であり発生確度2に比べて低くなるが、捕捉率は80%程度であり見逃しが少ない。

発生確度1や2となっている地域に比べると可能性は低いですが、発生確度が現れていない地域でも積乱雲が発生している場合には、竜巻などの激しい突風が発生することがありますので、注意が必要です。

雷による災害

雷とはこのような現象です

- 雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり、放電する現象です。放電する際に発生する音が雷鳴で、光が電光です。
- 雲と地上の間で発生する放電を対地放電(落雷)といい、雲の中や雲と雲の間などで発生する放電を雲放電といいます。

雷から身を守るには…

雷鳴が聞こえたらすぐ避難、
建物や車の中へ避難

※木や電柱から4m以上離れる

雷ナウキャスト

(気象庁ホームページ)

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/thunder2-1.html>

雷の激しさを表すために活動度1~4に分けています。活動度2以上では落雷の危険が迫っている状況ですので、活動度2~4では直ちに身の安全確保の行動をとる必要があります。特に、活動度2は雷が発生していてもまだ活発に感じない状況か、落雷が発生する直前という段階なので気を許しがちとなりますが、この段階で行動をとることが被害を軽減させるのに大切です。

活動度	雷の状況		屋外において想定される対応	屋内や工場などで想定される対応
4	激しい雷	落雷が多数発生している。	● 屋外にいる人は落雷の危険があるため、建物や車の中へ移動するなど、安全確保に努める。 ● 屋内にいる人は外出を控える。	● パソコンなど家電製品の電源を切り、コンセントを抜く。 ● 工場の生産ラインなどリスクの大きい場所では、作業の中止や自家発電への切替などの対応をとる。
3	やや激しい雷	落雷がある。		
2	雷あり	電光が見えたり雷鳴が聞こえる。落雷の可能性が高くなっている。	今後の雷ナウキャストや空の状況に注意する。	
1	雷可能性あり	現在、雷は発生していないが、今後落雷の可能性がある。		

※活動度1~4になっていない地域でも、積乱雲が急速に発達して落雷する場合がある。

高潮による災害

高潮とはこのような現象です

台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。高潮は、主に以下の2つのことが原因となって起こります。

吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1cm上昇すると言われています。

吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

高潮から身を守るには…

堤防等の施設付近は危険、
海から離れましょう

